参考資料

久御山町交流促進会議

本プランの策定にあたり、久御山町交流促進会議を開催し、広く有識者等からご意見をいただきました。

● 久御山町交流促進会議　委員名簿（五十音順・敬称略）

鵜ノ口　眞司	久御山町商工会事務局　課長
河原﨑　博之	久御山町農産物直売所運営協議会　副会長
小嶋　眞由美	ＪＡ京都やましろ久御山町支店女性部加工部　部長
小西　義清	デジカメクラブ久写御　会計
坂部　智恵美	まちの駅クロスピアくみやま運営協議会　委員
塩田　富三	歴史街道推進協議会メインルート推進部　課長
島岡　弘賢	京阪電気鉄道株式会社経営統括室事業推進担当　課長
住山　貢	京都府山城広域振興局商工労働観光室　室長
髙月　裕子	クックピープル　代表
竹内　昇	京都機械工具株式会社総務部　部長
座長　谷口　知弘	同志社大学　客員教授
西野　石一	久御山町教育委員会社会教育課　課長補佐

● 久御山町交流促進会議　専門アドバイザー（敬称略）

青山　公三	京都府立大学 名誉教授　・　龍谷大学政策学研究科 教授

● 久御山町交流促進会議　オブザーバー（五十音順・敬称略）

岡本　章	高槻電器工業株式会社　営業部　係長
金子　明雄	巨椋池土地改良区　事務局長
河原﨑　彩子	絵かきミクロ

２０１５龍谷大学キャップストーンチーム久御山

・大熊　晋
・近藤　祐介
・千葉　有紀子
・辻　賢
・戸﨑　翼
・吉川　博之

● 開催経過

回	開催年月日	議題
第１回	平成 27 年６月９日(火)	・会議の趣旨 ・久御山町の現況 ・「くみやま　てくてくクロスマップ」について ・久御山町の「観光」　ワークショップ
第２回	平成 27 年７月 13 日(月)	・町内視察
第３回	平成 27 年９月２日(水)	・第４回目に向けての会議進行方針 ・「久御山町交流促進アクション・プラン」の構成図（案） ・アクション・プラン　ワークショップ
ワーキング グループ①	平成 27 年 10 月８日(木)	「農」、「商工」、「文化・歴史」のワーキング・グループに分かれ、アクション・プランのワークショップ
ワーキング グループ②	平成 27 年 10 月 30 日(金)	
第４回	平成 27 年 11 月 25 日(水)	・龍谷大学キャップストーン・プログラムチームによる「久御山町における農産物を活用した交流人口増加に関する調査」中間報告 ・全２回のワーキング・グループによるワークショップまとめ ・「久御山町交流促進アクション・プラン」骨子案
第５回	平成 27 年 12 月 21 日(月)	・「久御山町交流促進アクション・プラン（最終案)」評価

● 龍谷大学キャップストーン・プログラムによる政策提言

「食」をつかった久御山活性化プロジェクト～久御山 2020～」

2015 龍谷大学キャップストーンチーム久御山

龍谷大学地域公共人材キャップストーンプログラム　指導教員：青山　公三

メンバー：大熊晋・近藤祐介・千葉有紀子・辻賢・戸﨑翼・吉川博之

■キャップストーンプログラムとは･･･

キャップストーンプログラムは、アメリカの公共政策系の大学院で主に行われているもので、大学院で学んだ総仕上げとして、クライアントの依頼を受けた地域課題について幅広い観点から解決策を提案するものである。龍谷大学のキャップストーンプログラムは、久御山町からの依頼を受け、龍谷大学政策学研究科に所属する大学院生６名（社会人院生含む）で構成した。

■はじめに

久御山町交流促進会議での議論と、先進地域への視察を踏まえ、京野菜等の生産が盛んという特徴をいかした「久御山町における食を活用した交流人口増加」のための政策を提案する。ただし、交流人口を呼びこむにしても、現在国内観光市場は競争が激化しており、単発・一過性のイベント等で呼び込めるほど簡単ではない。そのため、最終的な目的として交流人口の増加を目指しながら、まずは「食」を中心に久御山町の独自性を打ち出す事業の道筋を提案する。

■先進地域視察のポイント

２０１５年６月から１２月までの半年間、現地調査と議論を重ねながら、以下のポイントに着目し、地域資源を活用した先進地域として「愛知県豊田市足助町（豊田市郊外）」「愛知県長久手市（名古屋市郊外）」を視察地とした。

＜ポイント＞

・地理的条件が似ている。（都市近郊）

・他地域の観光客をうまく引き入れている。

・特別な観光資源がある訳ではなく、知名度も高くない。

・民間主導、新規性、独自性、継続性がある。

＜日程＞

２０１５年９月１４日（月）～１５日（火）

＜視察先＞

足助屋敷 （足助町）	百年草 （足助町）	花もみじ （足助町）	あぐりん村 （長久手市）
地域資源の循環 交流人口誘致の演出	シルバー人材の活用 福祉と観光の融合	地域住民による起業 地産品の活用	地域の需給を満たす 多彩なイベント

＜視察先から学んだこと＞

① 地域資源（人・文化・自然など）の有効活用

② 新たな価値観の醸成

③ 誰もが参加したくなる「シカケ」

④ 季節感のある取り組み

■キャップストーンからの提案

提案にあたっては「中・長期的な計画であること」と、「目的を明確化した戦略性を立てること」の２点をポイントとする。具体的な提案については、以下のとおり。

年次	目的	取り組み内容
1 年目	住民参加の意識づけ	**「ワーキンググループ（実施主体）の立ち上げ」** 活動の中核となる担い手を住民主体でつくり、今後の施策の企画・立案・実行。 **「レシピの公募」** 久御山町の京野菜を使ったレシピのアイデア募集。専門家のアドバイス・監修・レシピ開発。
2 年目	「食」の生産地から消費地へ	**「レシピをもとに商品開発」** 久御山町への訪問者に対して、素材だけではなく、久御山町の食品を使った特産品の味をＰＲ。クロスピア他、複数店舗で展開。
3 年目	「食」ツーリズムの実現へ向けて	**「マーケティング（モニターツアーの実施）」** 町民や近隣地域住民を対象に、日帰りのミニツアーの実施や観光事業への準備。観光事業モデルを作成。
4 年目	「食」ツーリズムの確立	**「食を活用した観光ツーリズム」** 観光客と町民が集える空間づくり。 楽しみながら運営できる体制づくり。
5 年目	新しい久御山へ ～交流人口の増加とまちのにぎわい～	**「食」から生まれる交流** 交流人口の増加。 交流から生まれる新たな価値観の創出。

■実現に向けて

上記を実現するにあたり、留意点を挙げる。

事業主体に関するもの	プロジェクトに関するもの	外部要因
① 事業主体 ② 期間 ③ 担い手のメリット ④ 協力者との関係 ⑤ 住民との関係	① 地域資源の確保 ② ターゲットの設定 ③ ニーズの把握 ④ 集客（周知）方法 ⑤ 受け入れ体制	① 独自性（他との差別化） ② 将来性（継続性）

■まとめ

久御山町は京野菜の生産に加え、工業も非常に盛んである。しかし、農業は人口減少による担い手不足が懸念されることや、工業は経済状況など外部要因に対するリスク対応が各企業で講じられているものの、久御山町での持続的な経営が確約されている訳ではない。そのことから、農業、工業に次ぐ第三の産業として「食」の観光創出が考えられる。

「食」はいつの時代も人をひきつけ、住民参加の仕掛けとして効果的であり、「食」に関する持続的な取り組みを行うことで、住民の意識改革が生まれる。それを実現するために、私たちは議論と現地調査を踏まえ、「食」を使った久御山活性化の提案を行った。

これをきっかけとして、単に交流人口の増加促進にとどまらない、将来の久御山町を考える機会となれば幸いである。

久御山町交流促進アクション・プラン

平成２８年２月

編集・発行　久御山町事業建設部産業課
〒６１３－８５８５
京都府久世郡久御山町島田ミスノ３８
ＴＥＬ：０７５－６３１－９９６４
または
０７７４－４５－３９１４
ＦＡＸ：０７５－６３１－６１４９